

北海道神道青年協議会 立四十五周年記念大会



終戦五十年を迎へて
講師 大原康男先生

道 神 青

揮 毫
中野庁長

第4号

北 海 道
神道青年協議会
平成7年4月6日

ご挨拶



北海道神道青年協議会

会 長 芦 原 高 穂

正に光陰矢の如し、平成五年選出されて以来、二年間が瞬く間に過ぎてしまいました。その間、斯界が挙げて取り組んで参りました第六十回式年遷宮も立派に齎行され、当会も昨年創立四十五周年に当たり、秋には記念式典を挙行、記念事業には写真入神職名簿の改定版を刊行、記念野球大会を開催など、このことでは多くの諸先生諸先輩の皆様より心暖まるご支援ご協力をいただき衷心より厚く御礼申し上げます。

さて世相では特に政治の混乱から細川内閣、羽田内閣そして自社野合による村山政権が誕生し、戦後五十年の矛盾を象徴するような政治経済の混乱と停滞の内に平成七年を迎えたわけですが、村山首相は風邪と称して、恒例の神宮参拝を見合わせるなど、国民の一人として強い憤りを感じました。

去る一月十七日未明には、淡路島を震源とする大地震が阪神地区を襲い、一瞬の内に五千数百名の尊い命を奪ったのであります。茲に謹んで犠牲になられたかたのご冥福をお祈りすると共に、罹災されました皆様

の一日も早い復興に祈りつつ心よりお見舞い申し上げます。被災地の凄惨な姿は筆舌に尽くし難く、確実に二十一世紀までも残るであろうその復興の前途は遙かに遠く、戦後の繁栄を嘲笑うようなこの天地自然の力には現代文明の脆さだけが浮き彫りにされました。

なお当会としても神青協を中心とした被災地の支援活動への呼びかけに、及ばすながら二十九名の会員が呼応し去る三月七・八の両日にわたり、未だ復旧の目途さえ立たない三カ所の神社への支援活動実施させていただき、それぞれの神社の宮司様より丁寧なる感謝のお言葉を頂戴しております。

去る二月十三日神青協臨時総会におきまして、当会より神青協次期会長に推挙申し上げておりました北方前会長には、西高辻(太宰府天満宮宮司)会長の後任にめでたく選任されました。当会創立以来初めての画期的なことであり、その瞬間に立合うことが出来ましたことに大いに感激して居る次第でございます。

終戦五十年を迎えるに当たり北海道神社庁主催により、沖繩北聖碑慰霊祭が取り行われるに当たり、当会会員の祭儀奉仕の機会が与えられ、十名の会員が祭員となつて去る二月二十二日三百余名の関係者の御参列のもと厳肅に齎行され三万余柱の御英霊の御霊のご冥福を祈りつつ無事奉仕させていただきました。貴重な体験となりました、準備に奔走された関係各位には心より感謝申し上げます。

当会は厳しい時代に、斯道を次世代に受け継ぐためにも、神青会活動を通じ多面的な経験を蓄積し、会員相互の理解と切磋琢磨の場所として、より一層充実させていきたいと存じますので、今後とも何卒ご支援ご協力下さいますようお願い申し上げます。

平成六年度 北海道神道青年会活動報告

平成六年度定例総会

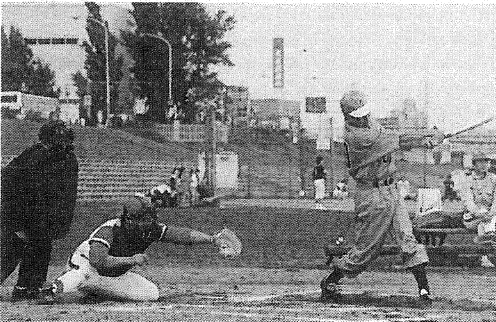
平成六年四月二十一日、北海道神社庁に於いて北海道神道青年協議会平成六年度定例総会が開催された。午後一時開会、神殿拝礼、国家斉唱、敬神生活の綱領に続き会長挨拶の後、議事に入った。議長には三橋正明会員が選出され、平成五年度会務報告、同一般・事業会計決算の承認を受けた。引き続き平成六年度事業計画案及一般会計案、特に本年は会創立四十五周年に当る為、記念事業を実施することも満場一致で承認され閉会した。

創立四十五周年記念大会

十月五日道神青創立四十五周年の記念式典がホテル札幌ガーデンパレスを会場に開催された。芦原会長による四十五年の歩みに触れた式辞の後、植田副庁長・西高辻神青協会長に祝辞を戴き式典を終了、記念講演に移った。講演は北海道には特にご縁をいただいている大原康男教授を講師にお迎えし、「終戦五十年を迎へ」と題して進められた。その中で教授は終戦を多面的・多局的に分析し具体的に五つの形に表わして論を展開し、巷間云われている侵略戦争



という一方的な戦争解釈に問題を提起して講演を閉めた。午後五時からには講師や多くの来賓・OBを交えて懇親会が開かれ西川副庁長の祝杯により懇談に入り盛會裡に終了。翌日は晴天に恵まれて予定通り記念野球大会が開かれ一人のけが人もなく無事終了。結果は下記の通り。



- 優勝 後志神青チーム
 - 準優勝 渡島神青チーム
 - 三位 胆振神青チーム
 - 四位 上川・空知・宗谷・日高混成チーム
 - 五位 文月Bチーム
 - 六位 北海道神宮チーム
 - 七位 文月Aチーム
- 最優秀選手賞 本間公祐(後志)

平成六年度会務報告

(神青協関係を含む)

- 〔平成六年〕
- 四月二十一日 第一回道神青協役員会(於 神社庁)
- 四月二十一日 北海道神道青年協議会平成五年度定例総会(於 神社庁)
- 四月二十六日 神青協事業委員会(於 神社本庁)
- 五月十日 北海道神社庁敬神婦人会連合会十周年(於 北海道神社庁)
- 五月十六日 神青協遷宮啓蒙推進委員会解散式(於 神社本庁)
- 五月十七日 神青協正副会長・委員長・議長会、定例役員会(於 神社本庁)
- 五月十六日 神青協近畿地区連絡協議会設立総会(於 神戸生田神社会館)
- 芦原監事、森指名理事、北方直前会長
- 六月二十八日 第二回北海道神道青年協議会役員会(於 北海道神社庁)
- 六月二十九日 神青協教化委員会(於 神社本庁) 後藤地区理事
- 八月二十七日 第三回北海道神道青年協議会役員会(於 北海道神社庁)
- 九月二十八日 第一回正副会長事務局長会議(於 北海道神宮屯宮)
- 芦原監事、後藤副会長、森副会

研修会開催
於 函館

平成六年十月二十六、二十七日の二日間、函館市のホテル函館ロイヤルにおいて平成六年度北海道神道青年協議会研修会が、渡島神道青年会・檜山神道青年会の担当により七十四名が参加して開催された。

「日本農業のゆくえ」稲作を中心に市場解放圧力下の苦難の現状を直視し、打開の道を考える」と題したこの研修会では、常に農業の立場から日本経済を考えてこられた國學院大學経済学部三輪昌男教授を講師に迎え、神道の立場から稲作文化を守っていく杖となるよう、兎角ありがちな神職という立場での主題論に陥ることなく、経済学を通して稲作を中心とした日本農業の現状と課題を客観的に捉え、その打開の道を考えた。

先ず日本農業の衰弱と苦難の現状を、GDP比等の指標と食料自給率や経営規模、またガットURの農業交渉をうける市場解放圧力等から説明された教授は、次に課題として国際競争力への対応、ポスト・ウルフアイ・ラウンドの取り組みを取り上げた。

内外価格差の問題や、農業の特殊性からくる自由貿易の例外化の問題

また現在の自由貿易主義の諸問題を為替レートや購買力平価の仕組み、また各国の輸入制限、農業保護政策を統計資料をもとに解説しながら、我々神職にもわかりやすく、言葉を砕いて説明され、自由貿易主義批判の代案として一部の突出した産業の輸出制限を目的とした輸出税の導入を提示された。

慣れない分野での講演だけに、受講者も戸惑いながらも、時折雑談を交えながら、また身近な例をとりながらの教授の的確な指摘を受け、次第に自由貿易主義が一部の強国や大企業の輸出拡大主義、自益主義であることや各国ではすでに食料自給率を高める為の政策がとられていることを理解し、その中で現在の日本農業がおかれている立場がいかに脆弱であるかを認識した。

折しも凶作、米の緊急輸入という中で、輸入自由化や米の市場解放のみが正論のように叫ばれていた時期だけに、まつりの中心である稲作文化を守っていく立場にある神職にとって、その重要さと困難さを改めて考えさせられた有意義な研修会であった。



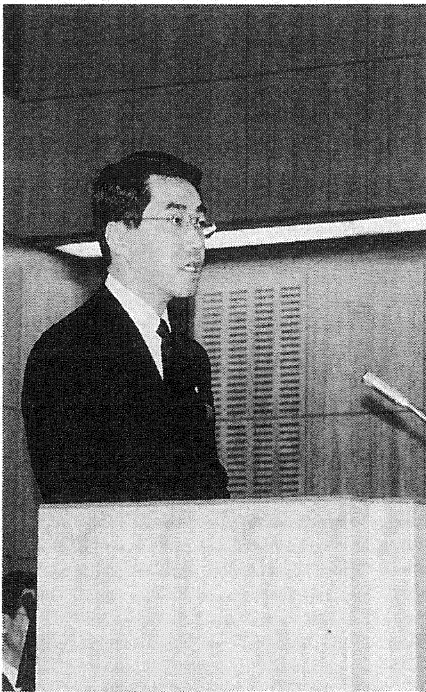
- 長、植田副会長、北方遷宮委員長、大西事務局長
- 十月四日 北海道神道青年協議会創立四十五周年報告祭（北海道神宮）及び大会最終打ち合わせ・準備（諏訪神社）
- 十月五日 北海道神道青年協議会創立四十五周年記念大会（於 ホテル札幌ガーデンパレス）
- 十月六日 道神青協創立四十五周年記念
- 第十三回北海道神社庁長杯第一回北海道神宮杯争奪親睦野球大会（於 札幌）
- 十月二十六、二十七日 平成六年度北海道神道青年協議会研修会（於 ホテル函館ロイヤル）
- 十月二十七日 第二回正副会長長事務局長会議（於 ホテル函館ロイヤル）
- 芦原会長、後藤副会長、森副会長、植田副会長、大西事務局長
- 十二月二日 第三回正副会長長事務局長会議（於 諏訪神社社務所）
- 芦原会長、後藤副会長、森副会長、植田副会長、北方遷宮委員長、大西事務局長
- 〈平成七年〉
- 二月八日 第三回北海道神道青年協議会役員会（於 北海道神宮）
- 二月十三日 神青協臨時総会（於 神社本庁）
- 芦原監事、後藤地区理事、森指名理事、北方遷宮委員長、植田代議員、内田代議員、星野代議員
- 三月七・八日 阪神大震災復興支援隊
- 芦原会長以下二十八名

神青協の活動

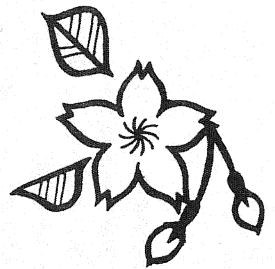
北方会員

神青協次期会長

に選出!!



会長に指名され挨拶する北方会員



神青協臨時総会にて

本年三月をもって任期満了を迎える神道青年全国協議会では、去る二月十三日神社本庁大講堂において臨時総会が開催された。

当日は定員一〇六名に対し、八五名の代議員が出席、開会式の後先ず議長副議長を選出、議事に入り西高辻会長から会務報告、特に北海道東方沖地震で破損した神道青年全国協議会北方領土返還祈願碑の状況については、芦原道神青会長が登壇、同碑を平素管理している根室金刀比羅神社への見舞等について報告した。

続いて神青協阪神大震災対策について質疑があり、同対策本部の設置を決定三月七・八両日に全国の会員による支援活動を行なう事になった。

又緊急動議が提案され、阪神大震災に対する決議案が上程され、原案通り可決した。

続いて次期会長監事の選出に移り、会則及び細則に基づいて開催された選考委員会の米原（地区理事）委員長より、報告があり満場一致で当会の北方会員が三名の監事と共に選任され、次期会長としての抱負をこめ就任の挨拶をした。この後西高辻会長の挨拶の後、閉会した。

平成六年度道神青 協賛金御札

〔札幌〕 北海道神宮・三吉神社・豊平神社・諏訪神社・弥彦神社・札幌護国神社・篠路神社・琴似神社・発寒神社・新琴似神社・手稲神社・相馬神社・白石神社・江別神社・石狩八幡神社・当別神社・豊栄神社・千歳神社

〔渡島〕 北海道神社庁道南支部・北海道神社協会

〔檜山〕 北海道神社庁檜山支部

〔後志〕 住吉神社・余市神社・岩内神社・水天宮・俱知安神社・竜宮神社・天満宮・小樽稻荷神社・豊足神社・喜茂別神社・潮見ヶ岡神社・高島稻荷神社・琴平神社・狩太神社・真狩神社・京極八幡神社・寿都神社・塩谷神社・美国神社・目名八幡神社・留寿都神社・神恵内厳島神社・小沢神社・仁木神社・大島神社

〔空知〕 空知青年神職会

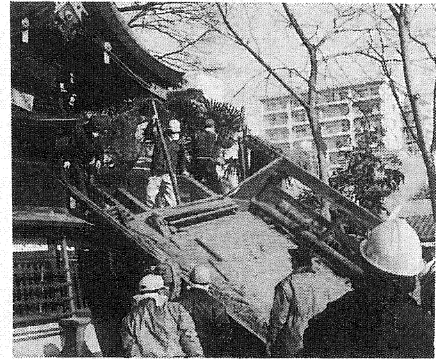
〔上川〕 上川神社・北海道護国神社・旭川神社・永山神社・富良野神社・土別神社・名寄神社・鷹栖神社・当麻神社・東川神社・愛別神社・美深神社・比布神社・和寒神社・上富良野神社・中富

阪神大震災復興支援隊

此の度の地震の甚大なる被害に鑑み、会員一丸となつて被災神社支援に対応する姿勢をいち早く打ち出していた神青協は、去る三月七・八日の両日支援活動を実施した。両日兵庫県の東西よりそれぞれ依頼のあった二十一のお宮に対し、延べ六二〇名にのぼる会員が兵庫県内の震災神社に入った。作業は日の出から日暮まで続けられ、北海道神青芦原会長以下二十八名は、東北・長野の神青と約五十名の隊を組み支援活動に従事した。

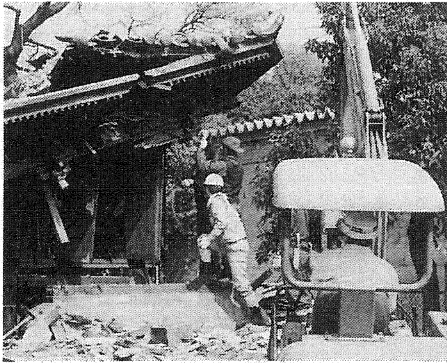


七日は西宮市松原天満宮に赴き、倒壊した神輿殿・境内社の解体と瓦礫の運搬・午後は東北・長野と別れ



て同じ西宮市の熊野八幡神社に移動、倒壊した鳥居、狛犬、玉垣等の石の建造物の整理にあつた。折りしも昨日が四十九日ということで見影もなく崩れ落ちた家々の片隅に置かれた花束やお供への数々が悲しみをさそい、被害の傷ましさを新ためて思い知つた。翌八日、神戸灘区に入る。震災後間もなく二ヶ月。復興の動きは随所に見受けられるも民家はまだ手付かずで放置されている。重機が撤きちらすコンクリートの霧の中、住吉神社で作業にあたる。ここも本殿拝殿とも見るも無残な姿に倒壊。地震のエネルギーの圧倒的な力をまざまざとみせつけられる。長野

神青による重機の手を仮り夕方には作業終了。幸いにも北海道神青は一人の怪我もなく、それぞれ宮司様の厚い感謝の言葉を後に二日間の支援活動を無事終えた。



良野神社・下川神社・風連神社・美瑛神社・東神楽神社・大上川神社・神楽神社・剣淵神社・山部神社・多寄神社・神居神社・上士別神社・雨粉神社・中川神社

【留萌】留萌神道青年会

【宗谷】宗谷青年神職会

【網走】網走神道青年会

【紋別】紋別神道青年会

【胆振】室蘭八幡宮・中島神社・本輪西八幡神社・樽前山神社・恵比須神社・伊達神社・大白山神社・壮警神社・稲荷神社・豊浦神社・刈田神社・湯沢神社・白老八幡神社・追分八幡神社・厚真神社・鷗川神社・早来神社

【日高】北海道神社庁日高支部

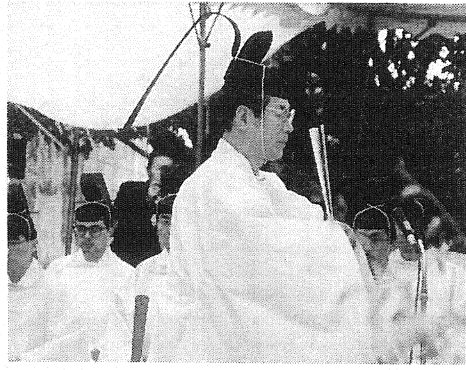
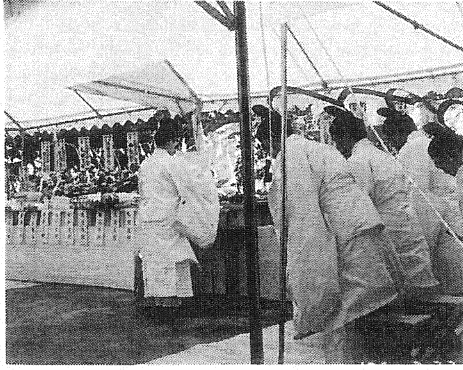
【十勝】十勝青年神職会

【釧路】厳島神社・鳥取神社・三吉神社・昆布森神社・厚岸神社・霧多布神社・川上神社・弟子屈神社・阿寒神社・厳島神社・音別神社・厚岸真竜神社

【根室】根室神道青年会

お納め戴きましたご協賛に対し深く御礼申し上げます。今後とも、変わらぬご支援を賜わります様、何卒宜しくお願い申し上げます。

沖縄北霊碑慰霊祭り齋行



去る二月二十二日、沖縄県糸満市にある北霊碑に於いて北海道神社庁主催の慰霊祭が折りしも小糠降る雨の中厳かに斎行された。当日朝から小雨をつけて沖縄県神社庁の職員の方々がテントの用意等会場設営に御尽力いただく中、北海道十五支部より持ち寄った数々の地域々の特産物が副饌として案上にお供へされ準備が進む。「昨日・今日の気温は沖縄では真冬です」とバスガイドが話していたが、それでも十六度ある気温は、北国との差に驚ろくばかりである。午後一時、北海道神社庁の慰霊団一七〇名、加えて北海道沖縄会の



一〇名総勢三〇〇名に至る参列のもと西川富良野神社宮司を斎主として斎員、楽人、巫女合せて二十三名の奉仕により慰霊祭が始まる。後志雅友会の奏楽の中浦安の舞が奉納され、日の本の国に永々と響き伝わる鈴の音の妙なる調べが英霊の御霊をお慰めする。続いて沖縄の素朴な歌と踊りも供され、全員が玉串を捧げ、花捧げ、手紙を供えて御霊の永遠に安らかならん事を祈った。

午後三時、二時間に及ぶ祭事は滞りなく終了。後刻挨拶に立った沖縄県遺族連合会座喜味会長は、こんなに立派で厳かな慰霊祭は初めてであると驚ろきを隠さず語った。深い祈りの中で戦後五十年節目の慰霊の旅は恙無く終わった。

平成七年度

道神青研修会について

日時 平成七年度十月

二十四・二十五日

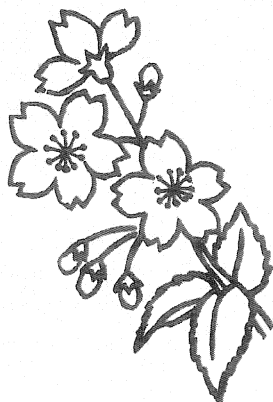
於 小樽国際ホテル

担当 後志神青

講師 未定

詳細は、担当神青からご案内があります。

多数のご参加をお願いします。



事業委員会頒布品

ビデオ「衣冠」

販売価格 四、九八〇円
企画制作 神青協事業委員会